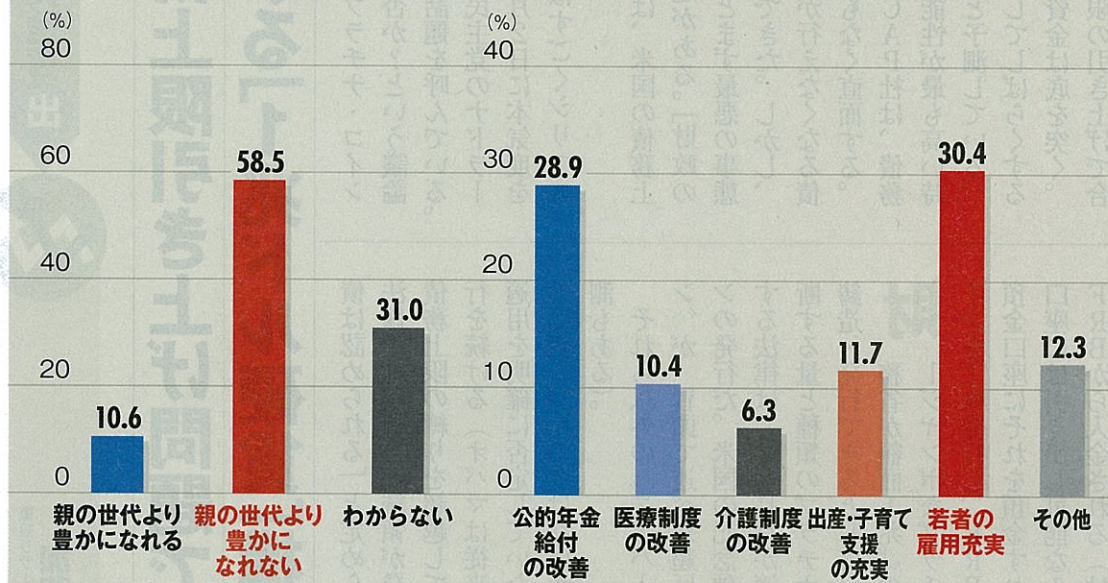


夢を持ってない若者

中高年は自分のことよりも若者の雇用を心配している

「親の世代より豊かになれない」と思っている学生の比率

中高年が考える最も重要な社会保障施策



出所: 世代間問題研究プロジェクト「2012年3月卒業予定者に対するアンケート調査」2012年2月

出所: 世代間問題研究プロジェクト「中高年アンケート調査: 社会保障で最も重要な施策は何か」2012年12月

FLINT HILL

日本では最近、多くの若者が「親の世代より豊かになれない」と思っている。世代間問題研究プロジェクトが2012年2月に実施した「12年3月卒業予定者に対するアンケート調査」(当時、大学4年生であった学生が主な調査対象者。回答者は1250人)によると、自分は親の世代より豊かになれると思うかという設問に対して、「はい」が10%強、「いいえ」60%弱、「わからない」30%強であった(左のグラフ参照)。

バブル崩壊と長期間にわたるデフレの継続により、日本における若者の意識は一変している。

一方、中高年世代は今、社会保障施策として何を重要だと考えているのか。この点を調べた世代間問題研究プロジェクトのアンケート調査(12年12月実施。回答者は56〜71歳の中高年世代2128人)によると、「公的年金給付の改善」「医療制度の改善」「介護制度の改善」を挙げた人がそれぞれ約29%、10%、6%いた。自分に直接関係する政策へのこだわりが、やはり強い。

他方で、「若者の雇用充実」「出産・子育て支援の充実」を挙げた人も、それぞれ約30%、12%に及ん

(財)年金シニアプラン総合研究機構
研究主幹、一橋大学特任教授

高山憲之

Noriyuki Takayama



でいた。自分のことより、子どもや孫のことにほうに関心が強く、子どもや孫への施策強化を最優先してほしいと考えている中高年世代が意外と多い(右のグラフ参照)。

通常のアンケートでは重要施策について設問する場合、複数回答を可としており、社会保障関連では年金や医療などお年寄り向けの施策充実を挙げる人が多い。

世代間問題研究プロジェクトのアンケートは最重要施策を一つに絞って設問し、これまでの通念とは異なる事実を引き出している。

今の中高年世代は、自分のことより子どもや孫のことにほうをいたく心配している人が少なくない。

現

在の若者には、就職不安に悩み、就職浪人する人や非正規で働き始める人が多数いる。正規で就職することができても、生涯賃金は団塊の世代と比べて実質3割減となっている。初職がブラック企業などで、1年以内に離職・転職する人の割合も依然として高い。

政治家は地元の中高年世代に対して、子どもや孫の実情を尋ね、政策の優先順位変更について率直に訴える必要がある。